

通 刊 第 1 3 号

20-2 財千教振学報 4

千葉県生涯学習に関する
アンケート調査報告書（概要版）

平成20年5月

千葉県生涯学習センター

目 次

1. 調査の概要.....	1
2. 生涯学習の認知度.....	2
3. 生涯学習のイメージ.....	3
4. 興味を持っていること.....	4
5. 直近1年間に行った学習活動.....	5
6. 活動のきっかけ【小学生・中学生のみ】.....	6
7. 活動をしていて良かったこと.....	6
8. 活動形態.....	7
9. 日常生活で不安なこと.....	8
10. 新たな学習への意欲【高校生・一般市民のみ】.....	9
11. 情報収集方法【高校生・一般市民のみ】.....	10
12. 必要な情報【高校生・一般市民のみ】.....	11

1. 調査の概要

この調査は、千葉市生涯学習センターにおける学習体系を見直し、新しい事業体系を構築するための基礎資料とするため、市民に学習の機会と提供する機関として、今後の生涯学習センターが本来担うべき役割を明確にし、生涯学習センターと生涯学習に対する市民のニーズを把握することを目的に実施しました。

平成 20 年度は、今回の調査結果をさらに分析し、生涯学習に関する有識者からの助言や、社会的な背景なども踏まえた上で、市民によりよい学習の場と機会を提供するための今後の事業体系のあり方について研究を重ねていきます。

【調査実施概要】

調査種別		調査の対象	配布数	回収数	回収率	調査の方法
児童・生徒調査	小学生調査	①対象校 各区から対象校1校を無作為抽出(全6校) ②対象者 第4～6学年から1クラスを無作為抽出	571	548	96.0%	学校を通じて 依頼・回収
	中学生調査	①対象校 各区から対象校1校を無作為抽出(全6校) ②対象者 第1～3学年から1クラスを無作為抽出	589	554	94.1%	
	高校生調査	①対象校 市内の高等学校3校 ②対象者 第1～2学年から各2クラスを無作為抽出	433	428	98.8%	
一般市民調査	①対象者 無作為抽出した市内在住の19歳以上の男女(1,500人)		1,500	569	37.9%	郵送による 配付・回収

【調査期間】

児童・生徒調査：平成 19 年 12 月 17 日～平成 20 年 1 月 18 日

一般市民調査：平成 19 年 11 月 30 日～平成 19 年 12 月 17 日

【調査票】

調査ごとに小学生・中学生・高校生・一般市民を対象とした4種類の調査票を作成。小学生調査及び中学生調査、高校生調査及び一般市民調査をそれぞれ同様の調査内容とし、年代による意識の差を分析しました。

(注1) %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しているため、%の合計が100%にならないことがあります。

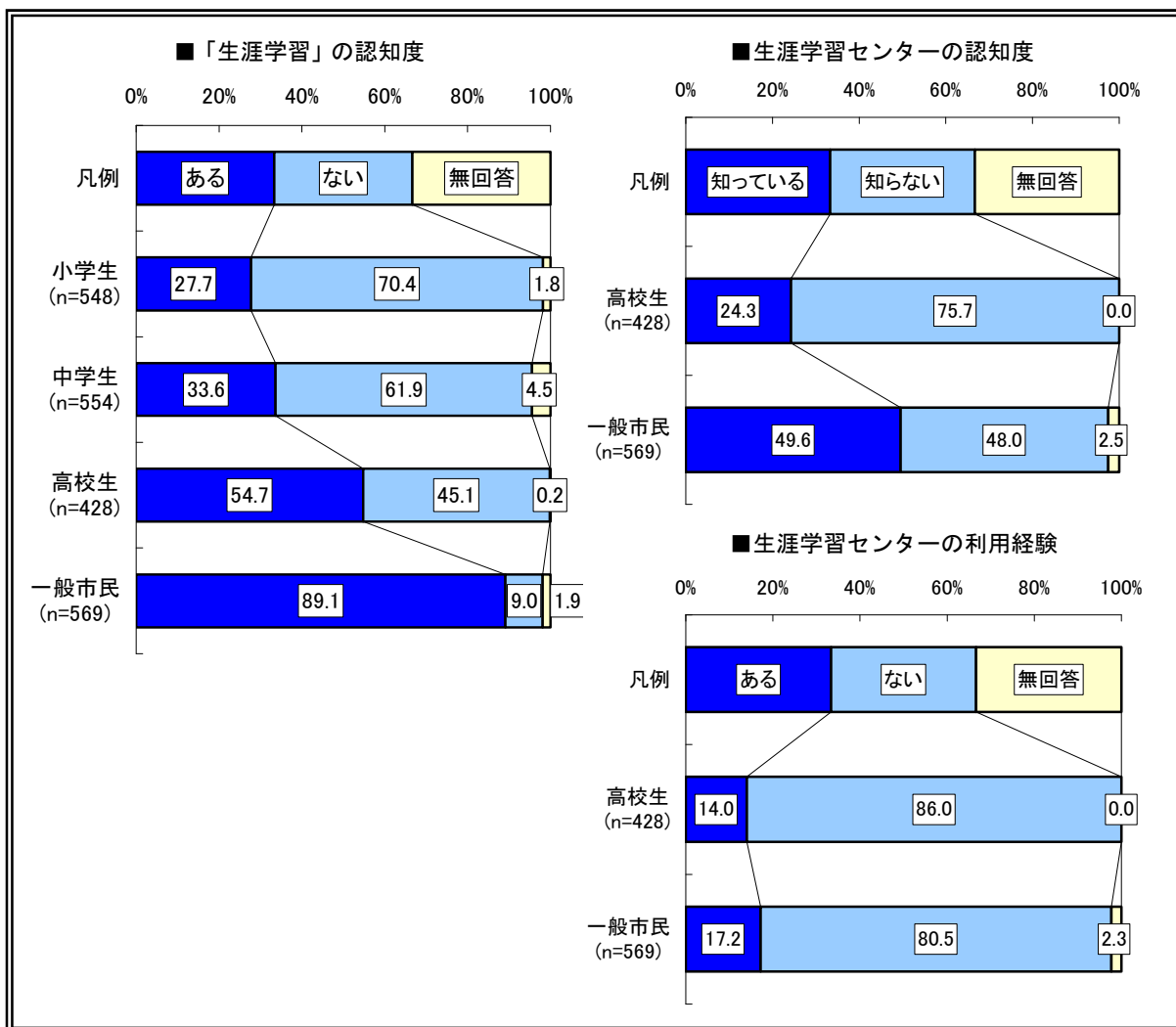
(注2) グラフは、内容に応じて、抜粋したものを掲載しています。

◆「千葉市生涯学習に関するアンケート調査報告書」本編につきましては、
千葉市生涯学習センターホームページ(<http://chiba-gakushu.jp/>)に掲載しております。

2. 生涯学習の認知度

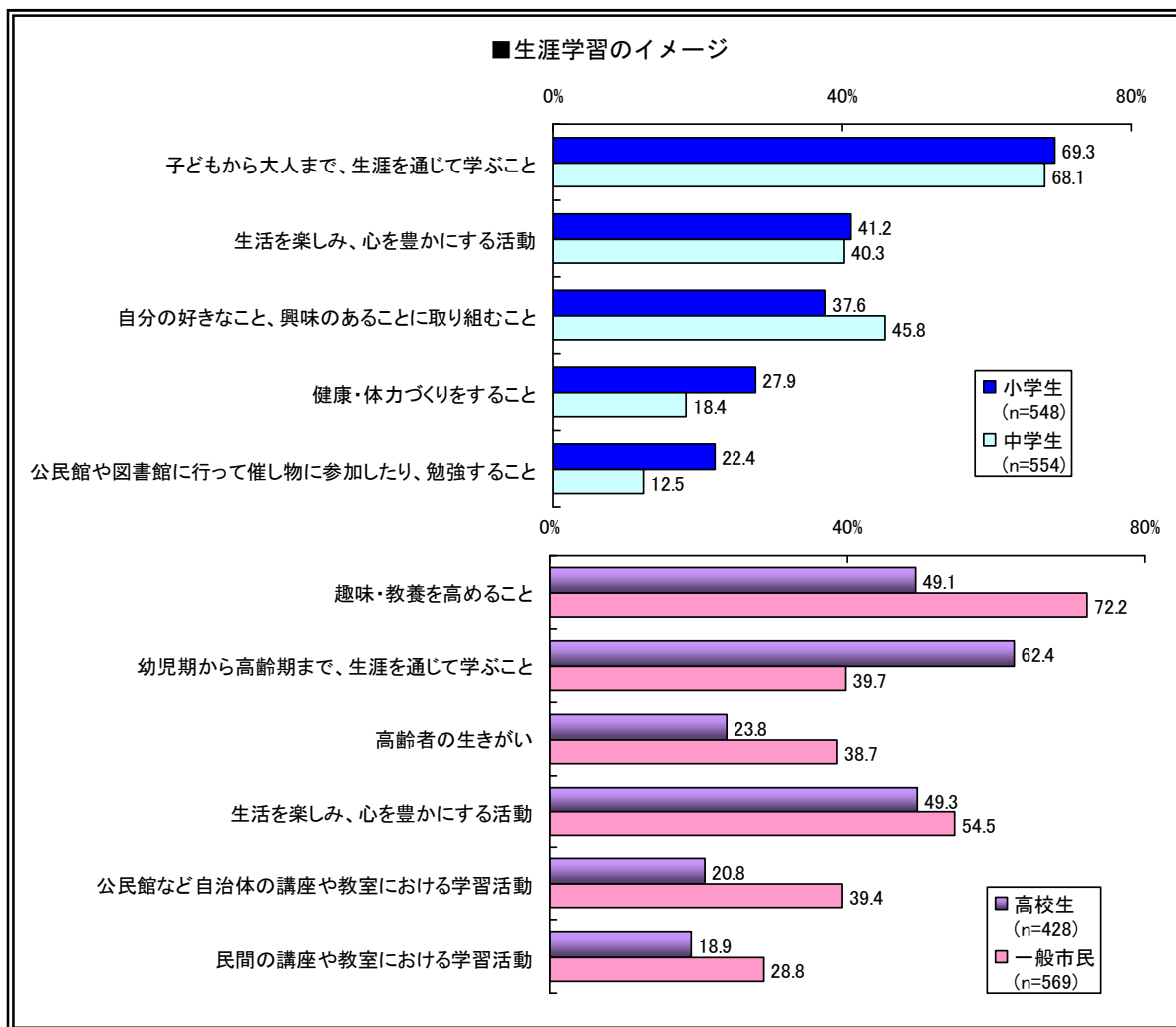
■「生涯学習」という言葉の認知度についてみると、小学生では27.7%、中学生では33.6%、高校生では54.7%、一般市民では89.1%と、年齢が高くなるにつれて認知度が高くなっています。一方、「千葉県生涯学習センター」の認知度について、高校生及び一般市民にたずねたところ、高校生では24.3%の認知度、一般市民では49.6%と約半数にとどまりました。

また、生涯学習センターの利用経験についてみると、高校生、一般市民ともに2割を下回っています。



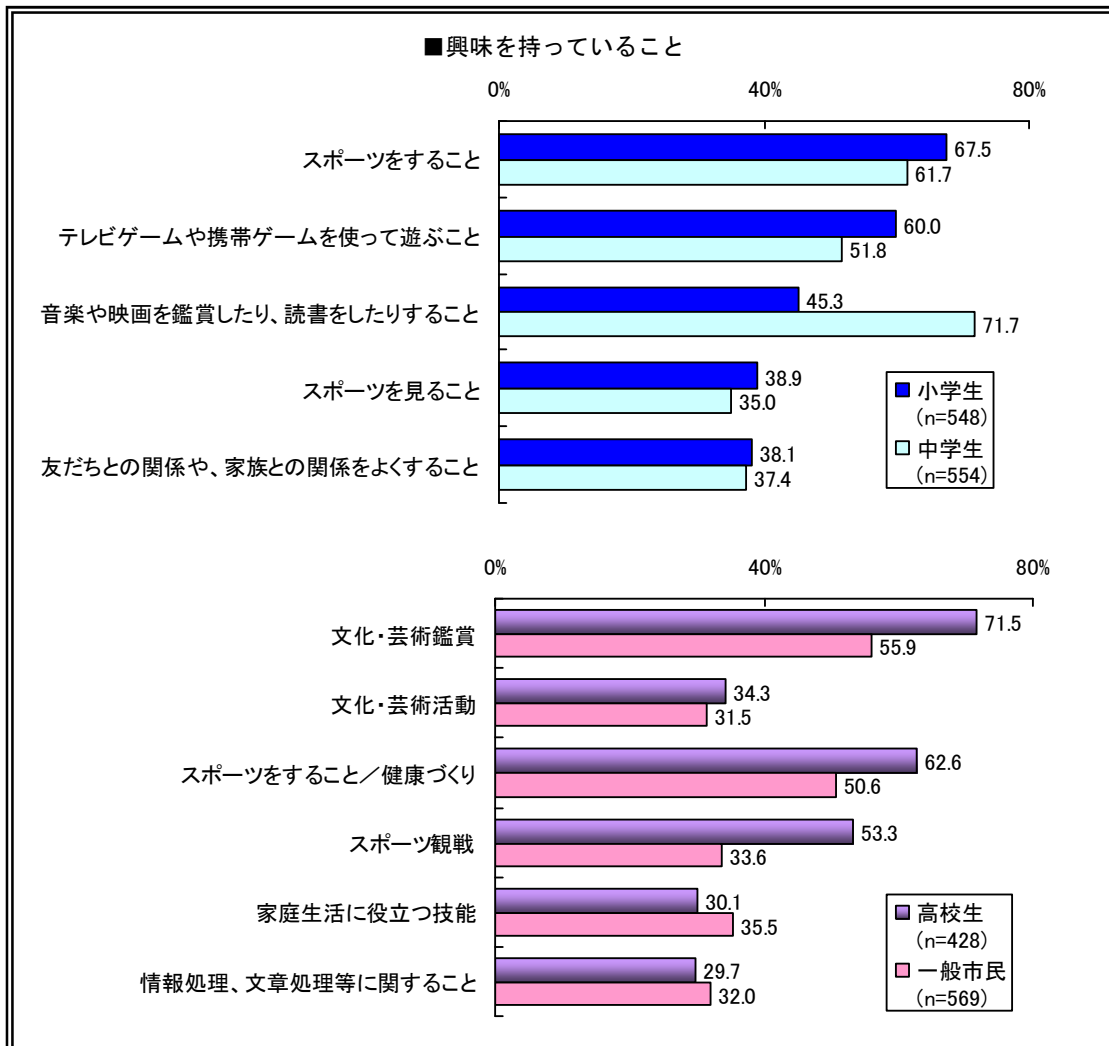
3. 生涯学習のイメージ

■小学生、中学生、高校生では年齢に関わらず“生涯を通じて学ぶこと”というイメージを持っている傾向がみられました。一方、市民の意識は「趣味・教養を高めること」が最も高く、7割を超えています。本来、生涯学習は、年齢や性別に関わりなく、生涯を通じて学び続けることであり、小学生～高校生の意識は本来の生涯学習の意味に近い結果となっています。反対に、一般市民は「趣味・教養」という特定の分野に意識が集中する結果となりました。



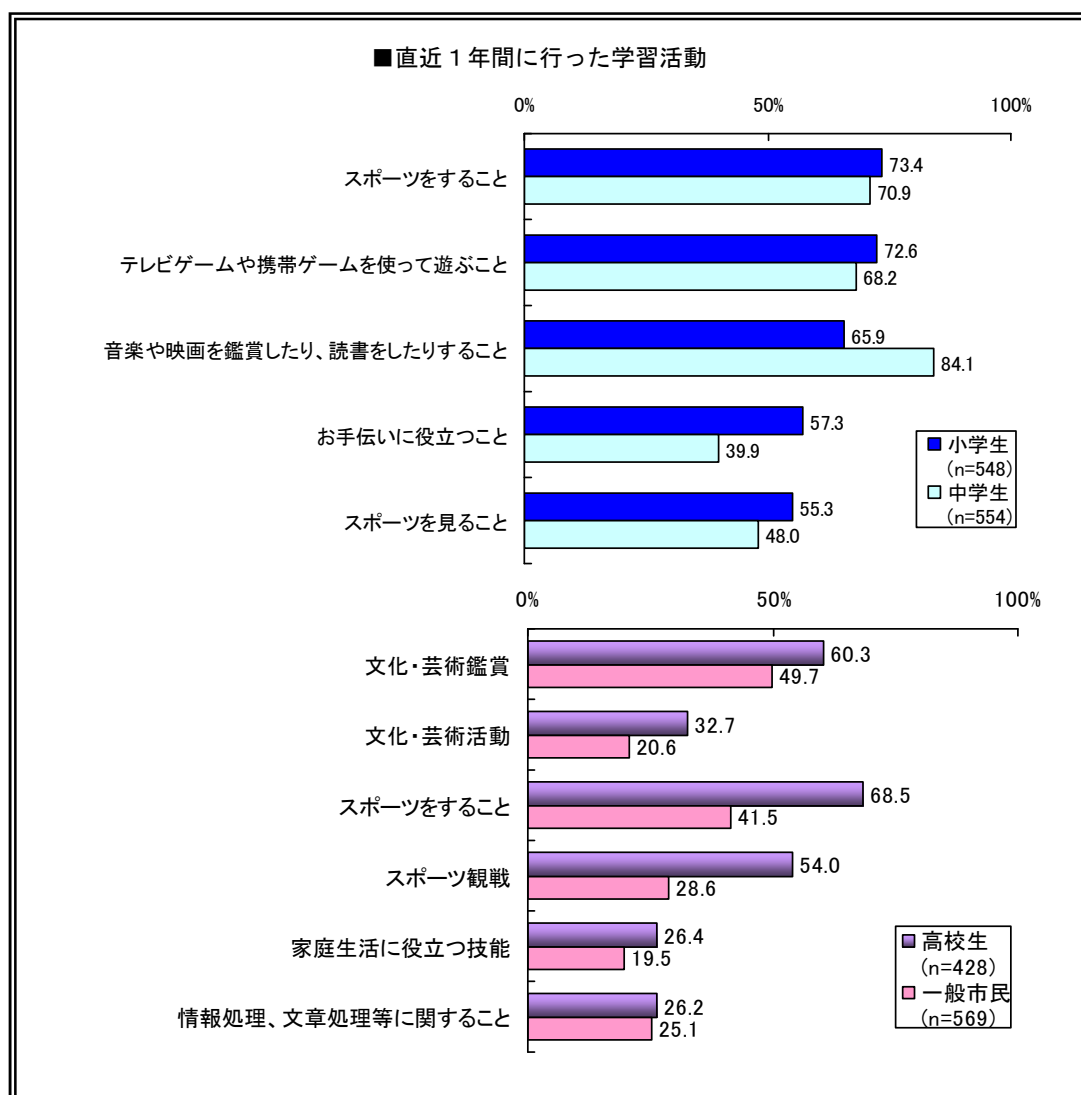
4. 興味を持っていること

■年齢にかかわらず、市民の文化・芸術鑑賞に対する関心が高くなっています。小学生では「スポーツをすること」が最も高くなっていますが、「音楽や映画を鑑賞したり、読書をしたりすること」も第3番目に上げられているうえ、中学生、高校生、一般市民調査でも「スポーツをすること」、「健康づくり」に対する関心は高くなっています。



5. 直近1年間に行った学習活動

■実際にこの1年間に行った活動をみると、どの層においても興味があることとおよそ一致しています。小学生、中学生は『興味を持っていること』の割合よりも、実際に行った学習活動の割合が高くなっていますが、高校生、一般市民は『興味を持っていること』の割合の方が高くなっています。このことから、小学生、中学生においては、“やりたいことができていない”といった現象はあまり起きていないものと考えられますが、大人になるにつれて“やりたいけれど、実際活動するまでには至っていない”ケースが多くなるものと予測されます。

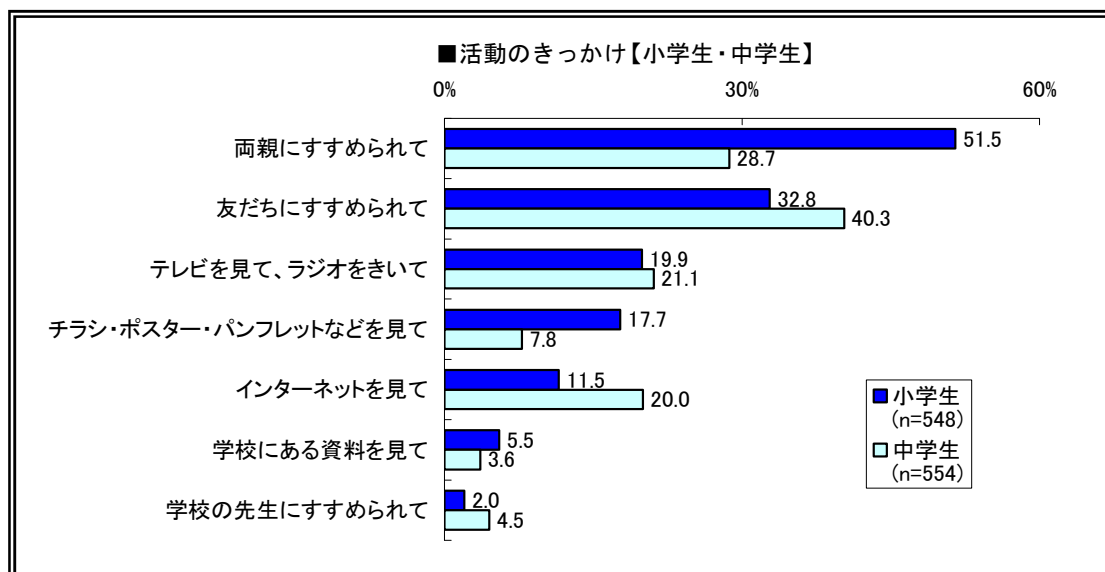


6. 活動のきっかけ【小学生・中学生のみ】

■活動をはじめたきっかけについてみると、小学生では「両親にすすめられて」、中学生では「友達にすすめられて」が最も高くなりました。小学生は保護者の影響を、中学生は友人の影響を受けやすいと考えられます。

ラジオやテレビなど、チラシやポスターなどもそれなりの割合を占めている一方で、「学校にある資料をみて」、「学校の先生にすすめられて」の割合は低く、生涯学習活動については学校から活動のきっかけを得るケースは少ないものとみられます。

その一方で、中学生では「インターネットを見て」が2割を占めるなど、インターネットの利用が中学生にも広がってきていることがうかがえます。



7. 活動をしていて良かったこと

■活動をしていて良かったことについては、属性にかかわらず、挙げられた意見は共通しています。「体力がついた」、「健康によい」、「勉強になった」、「将来の役に立つ」、「友人ができた」、「活動が楽しいなど」の意見が多く回答されました。生涯学習のメリットは年齢や属性にかかわらずおよそ共通していることが明らかとなりました。

小学生	
意見内容	件数
友達ができ	73
勉強ができるようになった・勉強がいやではなくなった	27
活動が(もっと)好きになった	24
活動が楽しい	22
体力がついた	20

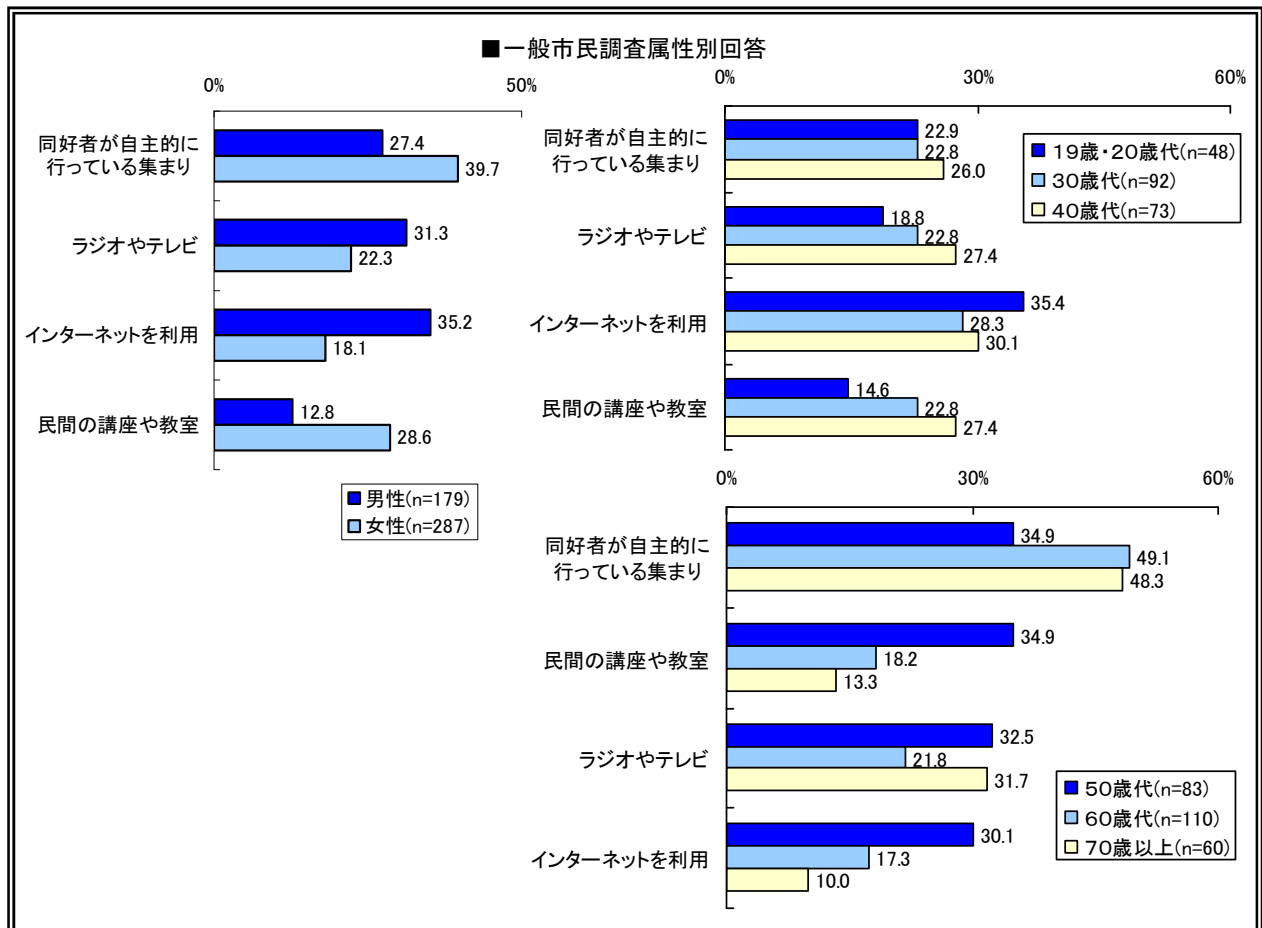
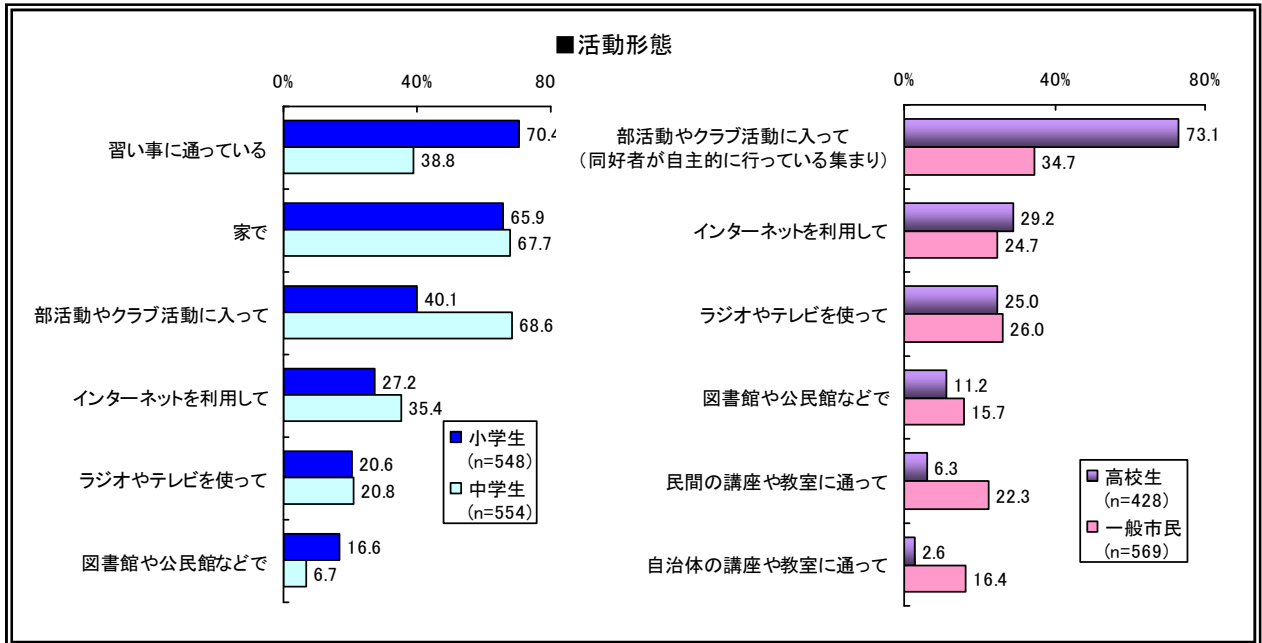
高校生	
意見内容	件数
体力がついた	37
活動が楽しい	32
友達ができ	27
知識が身に付く	18
ストレス解消になる	8

中学生	
意見内容	件数
体力がついた	43
活動が楽しい	42
将来の役に立つ・勉強になった	34
仲間とのコミュニケーションがとれる	23
ストレス解消になる	13
良い経験ができる	8

一般市民	
意見内容	件数
健康になった	38
友人ができ	26
視野が広がる、情報収集できる	24
仕事で役に立つ	23
活動が楽しい	22
ストレス解消になる	21

8. 活動形態

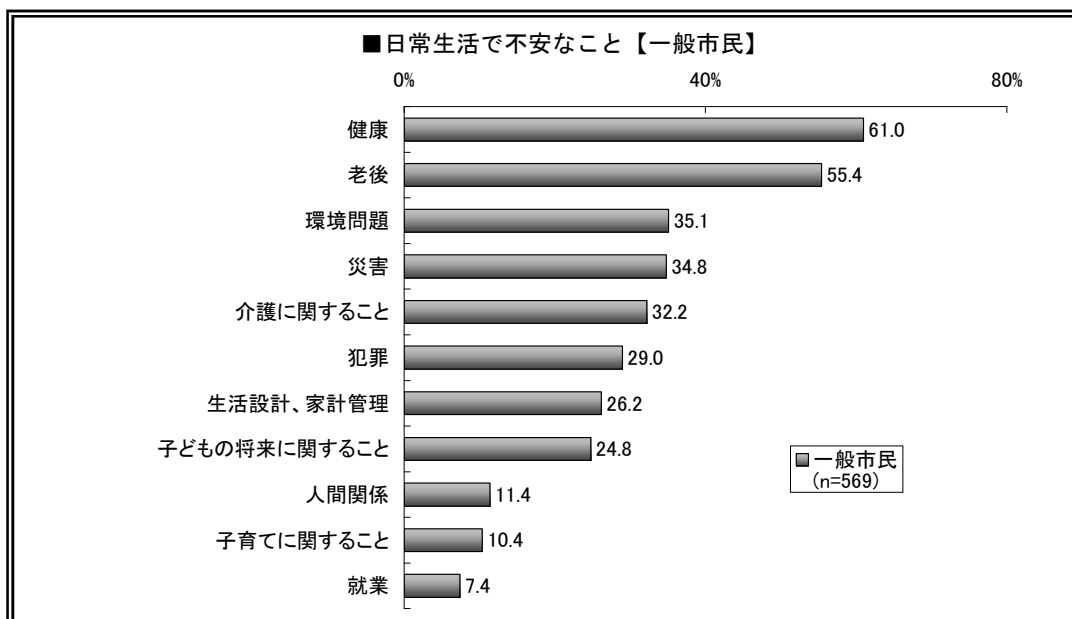
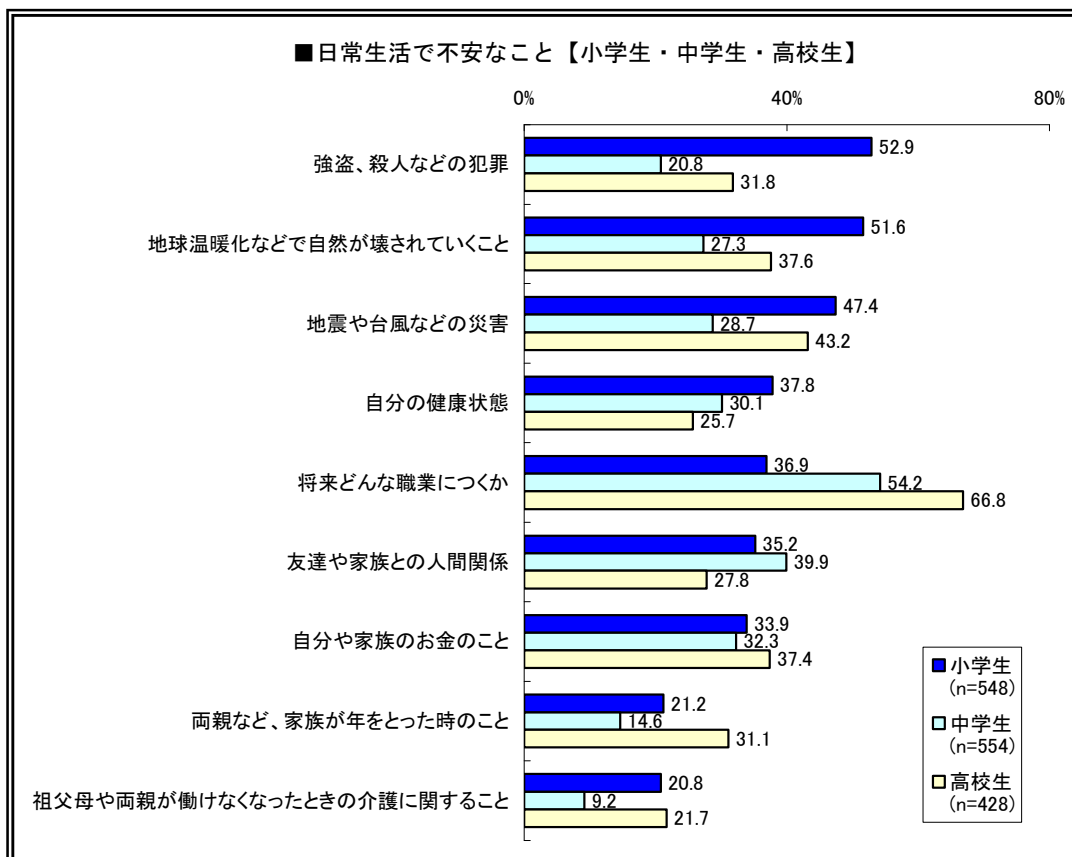
■実際に行った活動の形態は小学生では「習い事」という回答が多く、中学生以上については「部活動」や「同好者の集まり」など、活動が好きな人が集まって行うケースが多く見られました。しかし、一般市民調査の詳細を見ると、男性、会社員、20歳代、30歳代などの年齢の低い層は、「インターネットを利用」している割合が最も高いなど、属性によって活動形態は異なることがわかりました。



9. 日常生活で不安なこと

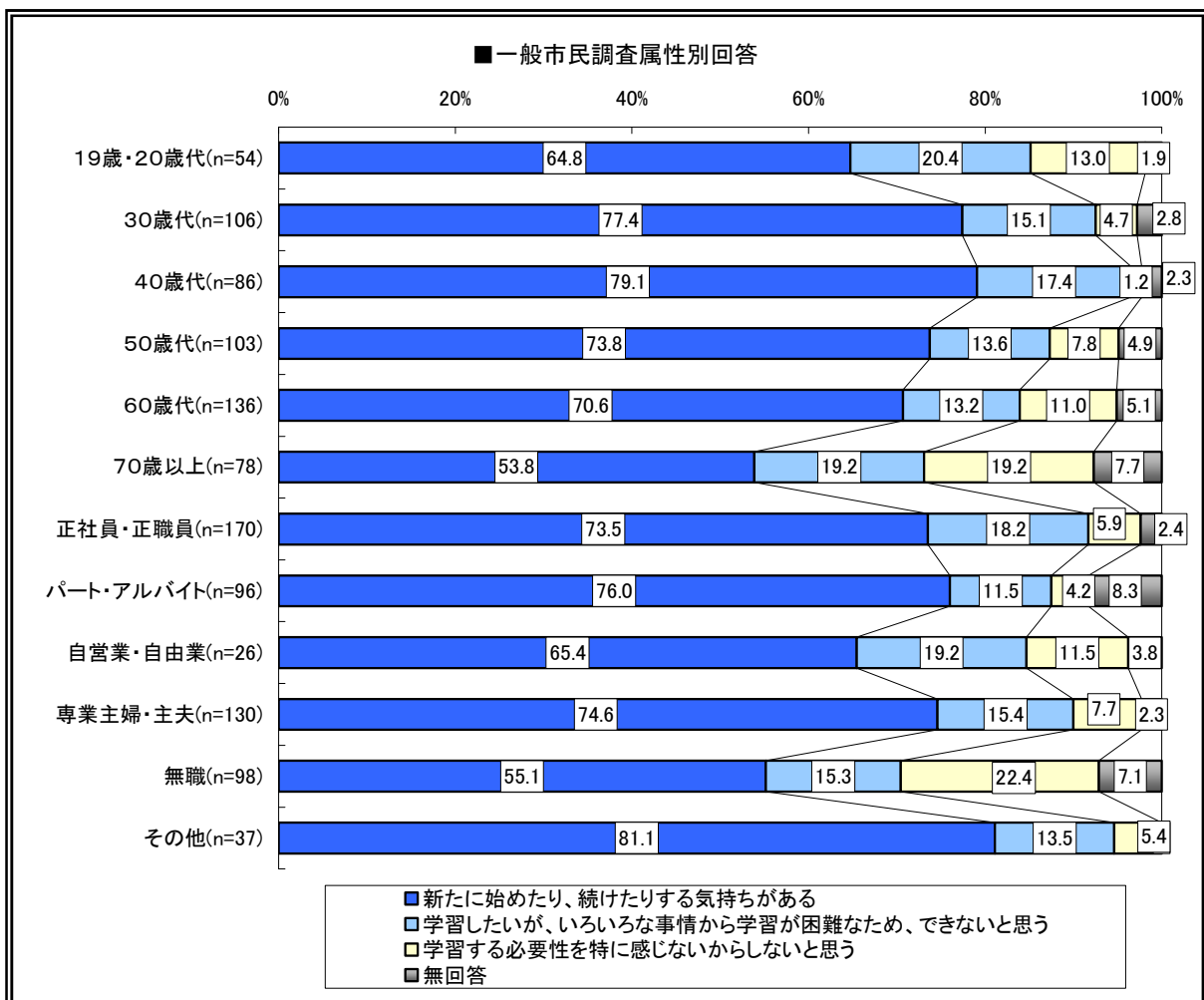
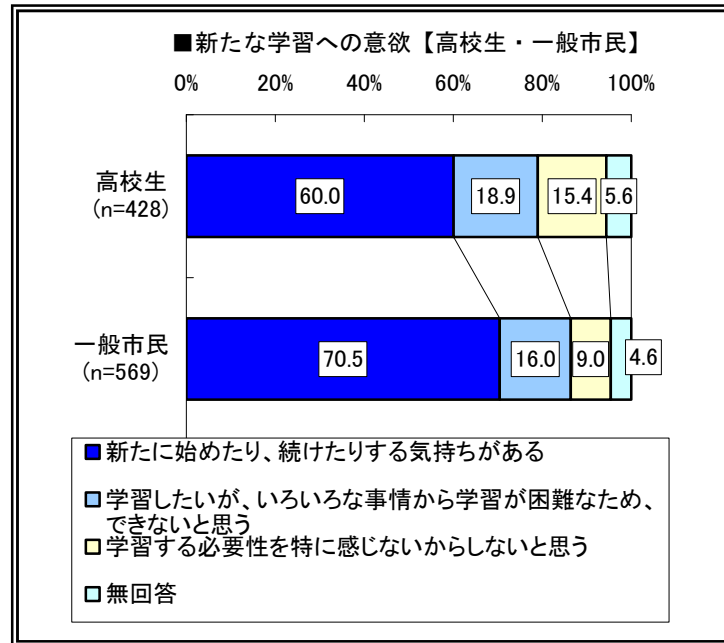
■日常生活において不安に感じていることは、年齢層によって大きく異なることが明らかとなりました。小学生については「強盗、殺人などの犯罪」の他に、環境問題や災害など社会問題的なことについても関心が高いことが注目されます。一方で、将来の進路について方向性が定まっていない中学生、高校生は、将来の職業についての不安が圧倒的に高く、特徴的でした。

一般市民は「健康」や「老後」などが高く、将来の自分の生活や体について不安を抱えているという意味では、将来のことが不安という中高生と意見が共通しています。『興味を持っていること』の回答で、健康づくりの割合が高かったのも、健康や老後に不安があることが背景と考えられます。



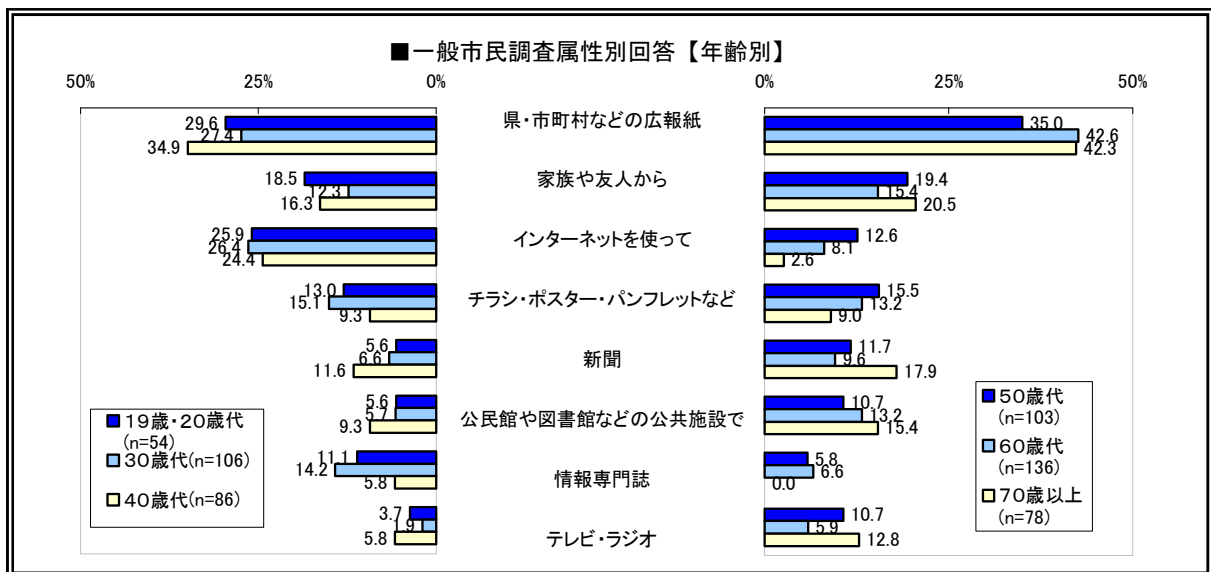
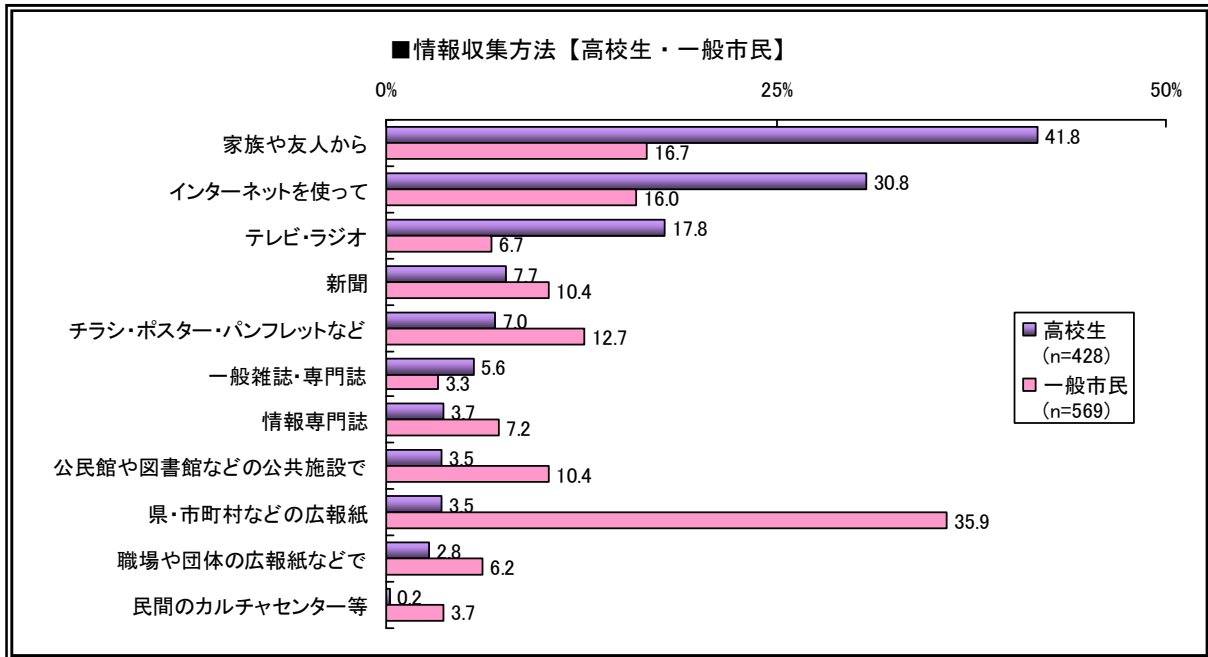
10. 新たな学習への意欲【高校生・一般市民のみ】

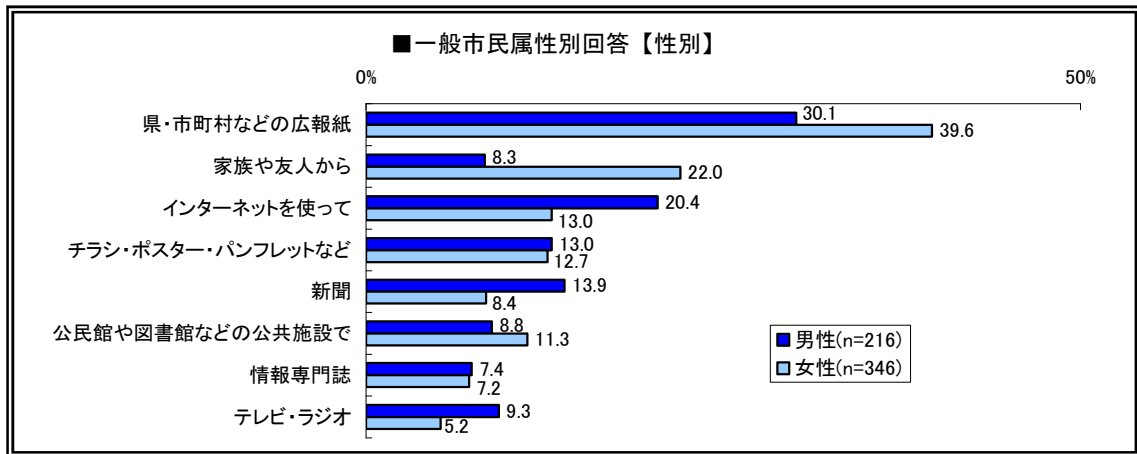
■高校生、一般市民ともに、新たな学習への意欲を持っている回答者が多い傾向がみられました。しかし、一般市民調査の回答別属性をみると、年齢の高い70歳以上や、職業では無職の人において、「新たな学習は必要ない」と考えている人が多く、年代や職業、生活スタイルによって生涯学習に対する意欲が異なっていると考えられます。



1.1. 情報収集方法【高校生・一般市民のみ】

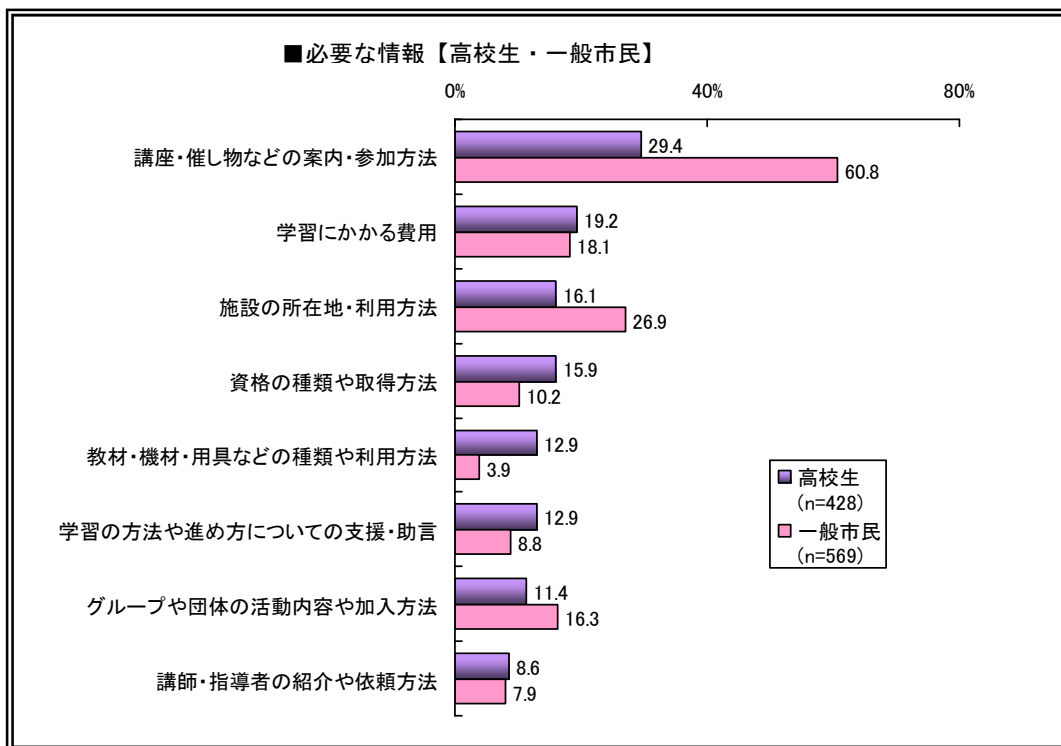
■生涯学習に関する情報をどのように得ているかについてみると、高校生と一般市民では主たる情報源が異なります。市民については、県・市町村の広報紙による情報の入手が主たる情報源となっていますが、属性によってインターネットと回答する者も多く、インターネットに対するニーズは高いと言えます。また、高校生については、今後も家族や友人などをたよりに、生涯学習に関する情報を得ていく傾向は根強いものと考えられますが、第2番目に「インターネットを利用して」が入っており、インターネットの利用が進んでいることがうかがえます。





12. 必要な情報【高校生・一般市民のみ】

■高校生、一般市民ともに最も必要だと感じている情報は「講座・催し物などの案内・参加方法」でした。何か学習を始めるにあたって、講座やイベントなど、学習のきっかけを与えてくれる場所や機会を欲していると言えます。



発行日：平成20年5月

発行：千葉市生涯学習センター指定管理者

財団法人千葉市教育振興財団生涯学習センター

電話 043(207)5820/5821